

### 低サイドローブグレゴリアンアンテナ

軸対称形アンテナは、アンテナ開口面上に1次放射器、副反射鏡、支持柱などがあるため、アンテナ主ビーム方向の近軸サイドローブが高くならざるを得なかった。そこで、1969年（昭和44）に、アンテナ開口面上に障害物のないオフセット形アンテナの研究を進め、近軸サイドローブが従来のパラボラアンテナよりも約15dB低く、しかも、交差偏波特性が軸対称形アンテナに近い、低サイドローブグレゴリアンアンテナを開発した。このアンテナは地上中継用アンテナのみならず、衛星通信アンテナとして広く実用化された。

出典：KDD 社史